

川島織物セルコン ミラノデザインウィーク 2026 へ出展

## 「織の地層 – Woven Strata –」

ごつごつ、きらきら、ざらざら。地層と鉱石、土の質感を、織物で表す試み



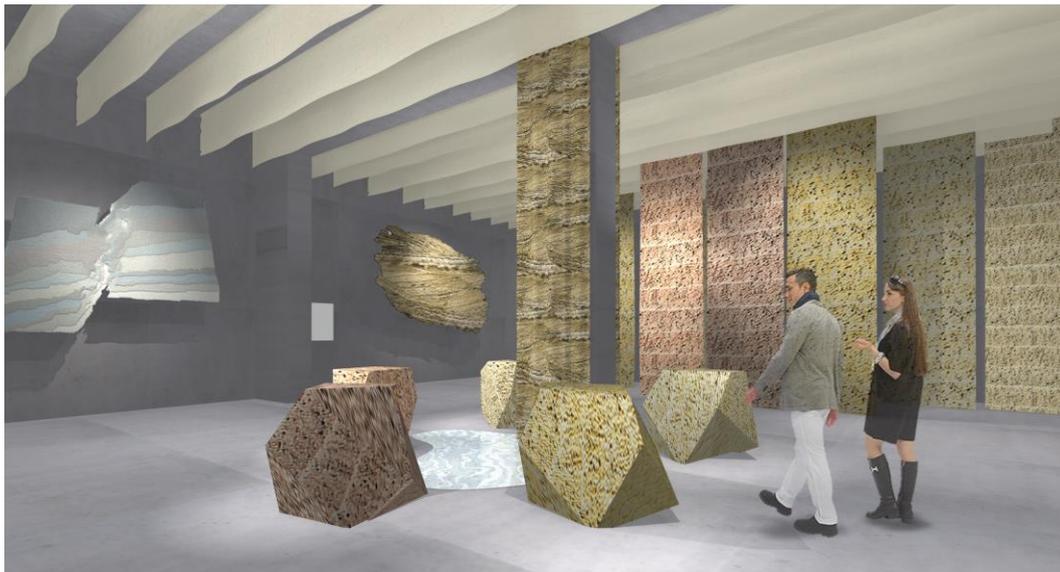
Photo by Masahiro Goto 撮影：後藤 正大

株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：光岡 朗）は、2026年4月20日（月）～26日（日）にイタリア・ミラノで開催される世界最大規模のデザインイベント「ミラノデザインウィーク 2026」に出展します。

5度目の出展となる今回のテーマは「織の地層」。

長い時間をかけて堆積し、圧縮され、隆起してきた地層の断面に現れる凹凸や粒感、光の角度によって変化する鉱物のきらめき、乾いた土壁のざらつきやひび割れ——自然界の「堆積」が生み出す多様な質感を、川島織物セルコンが長年磨き上げてきた、高度な織物技術によって表現します。素材の選定から織組織の設計、密度の精緻な制御に至るまで、工程を幾層にも重ねることで、硬さや粗さ、乾き具合といった、本来は捉えがたい感覚を、「織の表情」として可視化。自然の質感を単に写し取るのではなく、織という構造の中で再構成することで、テキスタイル表現の新たな可能性を探ります。

近年高まる、建築・インテリア空間に自然素材の質感を柔軟に取り入れたいというニーズに対し、本展示では、石や土壁といった硬質な素材がもつ表情はそのままに、触れた時に心地よい織物としての提案を行います。椅子張やクッション、パーティションなど、実用的なインテリア用途への展開も可能です。また、さまざまな質感を、空間のスケールや光環境に応じて選び分けられる構成とすることで、意匠表現にとどまらず、空間の重心や境界、雰囲気静かに支える「空間の中で役割を担う質感」として設計に組み込める、新たな織物の可能性を提示します。



会場では、堆積や圧縮、隆起といった地層形成のプロセスを手掛かりに、織の技法が生み出す質感を立体的に体感できる空間を展開。熟練の技術者が巨大な織機を用いて手織りで織り上げる迫力ある綴織アートワークをはじめ、絹糸や金糸、螺鈿、フィルムなどを織り込んだ作品、リアルな質感を追求した実用的な機械織り作品まで、多様な表現を一堂に紹介します。アートディレクターに照明デザイナーの岡安 泉氏を迎え、光の当たり方や見る距離によって変化するテキスタイルの表情を、視覚と触感の両面から味わえる展示としました。

川島織物セルコンが 1843 年の創業以来積み重ねてきた技術と挑戦が、ミラノの地で新たな表現として結実します。



## 出展概要

テーマ	: 織の地層 - Woven Strata - ごつごつ、きらきら、ざらざら。地層と鉱石、土の質感を、織物で表す試み
開催期間	: 2026年4月20日(月) 15:00 - 19:00、 21日(火) ~25(土) 10:00 - 21:00、 26日(日) 10:00 - 19:00
会場	: パオラレンティ ミラノ (Paola Lenti Milano) <a href="https://www.paolalenti-milano.it/en/">https://www.paolalenti-milano.it/en/</a> 住所 : via Giovanni Bovio, 28 20159 Milano イタリア <a href="#">MAP</a>
展示面積	: 約 110 m <sup>2</sup>
アートディレクション	: 岡安 泉 (岡安泉照明設計事務所)
特設サイト	: <a href="https://www.kawashimaselkon.co.jp/event/milan2026/">https://www.kawashimaselkon.co.jp/event/milan2026/</a>



織の地層 特設サイト

## 【参考資料】

### テーマ「織の地層」に込めた2つの意味

#### 1. 自然界の「地層」× 糸の積層である「織物」

地層や鉱石が長い時間の中で積み重なって形成されるように、織物もまた、糸を重ねることで生まれる“時間の痕跡”です。本展示では、「地層」という自然の積層と、「織物」という糸の積層を重ね合わせることで、目には見えない時間の流れや蓄積を可視化することを目指しました。

#### 2. 創業 1843 年から続く“織物技術の堆積”

川島織物セルコンは創業以来、織の技術を積み重ね、「技術の地層」を形成してきました。手織りの迫力ある綴織アートワークをはじめ、絹糸や金糸、螺鈿、フィルムなどを織り込んだ織細できらめきのある織物、さらにはリアルな質感を追求した実用的な機械織り作品まで、180 年以上にわたる技術と挑戦の堆積を、多様な織物表現として紹介します。

### 代表する新作織物のご紹介



#### ■Strata\_1

・サイズ：H 約 300 × W 約 200 cm

・技法：綴織、流し織

柄を表現する緯糸を手作業で織り込む、絵画的表現に優れた織技法「綴織」によって、長い歳月をかけて形成される自然界の堆積「地層」を表現しました。麻、紙、ウール、レーヨンなど多様な素材を用い、糸の太さや織組織の違いを組み合わせながら、異なる織のラインを幾重にも積み重ねています。時間の堆積を思わせる奥行きとリズムを持つ作品です。



#### ■Onyx\_4

・サイズ：H 約 30 × W 約 30 cm

・技法：紋織、写真引箔

金銀や漆などで装飾を施した和紙を糸状に裁断し、緯糸として織り込む、西陣織の代表的な伝統技法のひとつ「引箔（ひきはく）」を用いた作品です。オニキスの断面をモチーフに、鉱石が持つ透明感や、鮮やかで艶のある色彩をリアルに再現し、光の反射によって表情が変化する奥行きある織表現を生み出しています。



#### ■Soil\_2

・サイズ：H 約 400 × W 約 120 cm

・技法：ジャカード織

乾いてひび割れた土壁の表情を、ジャカード織物で表現しました。ポリエステル在意匠糸によって乾いた質感を生み出し、異なる2種類の生地を袋状に織る風通織（ふうつつおり）という技法を用いることで、不規則な凹凸を織り出しました。硬質な印象の中に、織物ならではの柔らかさを併せ持つ一作です。



#### ■Onyx\_5

・サイズ：H 約 600 × W 約 200 cm

・技法：マシンタフト、インクジェットプリント

オニキスの吸い込まれるような透明感と静謐な美しさを表現した作品です。タフティングによる織細な石目調の基布に2色の染料を流し込み、グラデーションで染め上げることで、層の重なりを表現しました。凛とした静けさと大胆さを併せ持つ、強い存在感のある作品です。

## インスタレーション 織の地層 - Woven Strata - / 川島織物セルコン × 岡安 泉

インスタレーションでは、アートディレクターに照明デザイナーの岡安 泉氏を迎え、光の演出によって織物の「質感そのもの」が際立つ空間を展開します。光の反射や吸収による見え方の違い、近くで見たときと遠くから見たときで変化する表情などの視覚的な特徴に加え、触感まで含めてテキスタイルを体験できる展示構成です。

### アートディレクター 岡安 泉

メッセージ 「堆積」とは、自然界において水や風の運搬の力の弱まった場所に、土砂や有機物が積み重なる現象を指し、これが驚くほどの長い年月をかけて地層や堆積岩を形成する。この地層や堆積岩は、やがて地殻変動や水による浸食、掘削などの強い力によって我々の眼前に表出する。そして表出した地層や堆積岩は、再びゆっくりと時間をかけて雨による浸食や風による風化をしていく。我々が地層や堆積岩の断面を見るのは、多くの場合、この過程の只中にある瞬間だ。「堆積」をテーマに制作された織物が並ぶ今回の展示は、表出したものがゆっくりと時間をかけて浸食、風化していく風景をイメージしたものとしている。この風景の中で、今回の展示物の技術・技法の多様性と織の精度を感じ、記憶に残してもらいたい。



Photo by Masahiro Goto 撮影：後藤 正大

照明デザイナー / 1972年 神奈川県生まれ 岡安泉照明設計事務所代表

建築空間・商業空間の照明計画、照明器具のデザイン、インスタレーションなど光にまつわるすべてのデザインを国内外問わず行っている。これまで青木淳「白い教会」、伊東豊雄「generative order-伊東豊雄展」、隈研吾「浅草文化観光センター」、山本理顕「ナミックステクノコア」などの照明計画を手掛けるほか、ミラノデザインウィークなどの展示会において多くのインスタレーションを手掛けている。

### パオラレンティ (Paola Lenti)

1994年、グラフィックデザイナー出身のPaola Lentiがイタリアで創設したファニチャーブランド。オリジナル開発の最先端素材、自然にインスパイアされた無限の色彩、その特徴を最大限に活かしたデザインにより、美しく独創的なアウトドアおよびインドアコレクションを展開しています。



### 川島織物セルコン

1843年に京都で創業し、今年184年目を迎えた織物メーカー。

古くは明治宮殿、近年では京都迎賓館や数々のラグジュアリーホテルなどに織物を納入し、その唯一無二のクオリティと表現力が高く評価されている。熟練の職人による伝統的な手織り技術に加え、現代のテクノロジーを駆使した機械織りも積極的に取り入れ、文化の継承と未来へつながる技術革新の探求に力を注いでいる。2019年よりその意志を体現するプロジェクト“織物屋の試み”を開始。「美の表現と織物の可能性に対するあくなき探求を起点とする無理難題に挑戦する」ことで、織物の進化と発展を目指している。京都本社には、企画・デザインから染め・織りまで一貫生産を行う織物の製造工場のほか、歴史的価値の高い染織品を所蔵する「川島織物文化館」、次世代に織物技術を継承する「川島テキスタイルスクール」を併設。織物文化の継承と発展、そして発信に努めている。

Website <https://www.kawashimaselkon.co.jp>

過去の取り組み <https://www.kawashimaselkon.co.jp/projects/>

Instagram @kawashimaselkon\_textiles

Facebook @kawashima1843

YouTube <https://www.youtube.com/c/kawashima1843>